

インターンプロジェクト 発表資料





インターンプロジェクト・ミッションについて

1 DXに対する社員の意識変化を生み出す仕掛けの設計・実施

会社全体でDXを推進していくために、社員1人ひとりにどんな視点・意識を持ってもらえば良いかを可視化。そのうえで面白がって前のめりに取り組んでもらうための仕掛けを設計。

2 社内課題への解決策の提案

現場で起きているリアルな課題を1つでも多く解決していくため、解決策を提案。

3 DX推進室の社内PR

各事業部のキーパーソンと積極的にコミュニケーションをとりながら、DX推進室を社内にPR。

(1) DXに対する社員の意識変化のための取り組み

1

業務・DXの認識に対するアンケート

DXに対する認識、大変な業務、時間がかかる業務の洗い出し [AI活用業務アンケート（回答） - Google スプレッドシート](#)

2

興味関心を引き出す勉強会

DXをするうえで、重要なツールとなるAIのすごさを紹介する勉強会でデジタルに漠然と興味を持ってもらった。 [AI講座 | Gamma](#)

3

ITリテラシー・DXの認識に対するアンケート

「DXに対して、まったく興味がない層は前回のアンケートや勉強会ではアプローチできていないのではないか」ということで、紙のアンケートを用いたり質問を平易な言葉にしたりして、より多くの人の意見を反映した。 [アンケート - Google スプレッドシート](#)

4

社内資料（DXに対する意識改革・ITリテラシー向上・DX推進室の広報）

上記のアンケート結果をまとめると多くの人が興味・関心があった。一方DX推進のための次のフェーズであるITリテラシーの部分で大きな個人差があるとわかった。よって、インターンの目的（興味関心を起こす）を超えて、ITリテラシーの底上げ、DXに対して興味を持ってもらうためのスライドを作成した。



社内アンケートー実施概要と主な結果

■ 実施概要・工夫した点

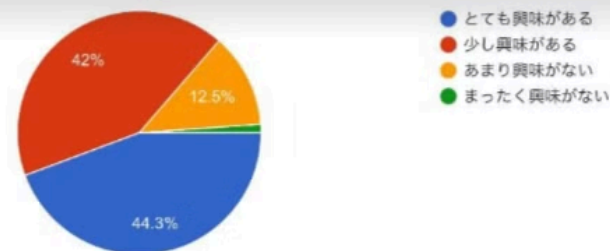
- 1回目（回答数：32名）
 - 通知手段：LINE WORKSのみ
 - 回答者が少なく、デジタルへの関心層に偏りがち
- 2回目（回答数：84名）
 - 紙アンケートを作成し、各事業部で直接呼びかけ
 - ほとんどの設問を選択式に変更 → 回答しやすさを向上
 - 幅広い立場・年代から回答が得られた

■ 主な回答結果

- 85%以上が「デジタル化による業務効率化」や「デジタルツールの利用」に魅力を感じる
- 一方で、ITリテラシーへの不安を抱える声が多数

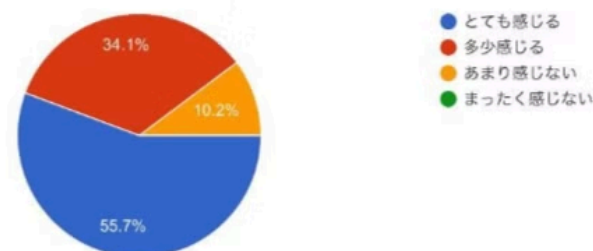
10. デジタルツール（パソコンやスマホなど）を使ってみたいと思いますか？

88 件の回答



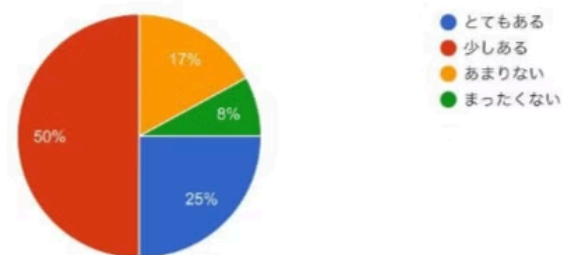
11. デジタル化による業務効率化に魅力を感じますか？

88 件の回答



12. 「使い方がわからない」「失敗が怖い」といった不安はありますか？

88 件の回答



※二回目のアンケート結果より抜粋

勉強会 — おやつ会で学ぶ AI & DX

■ 実施概要

- AI・DXの基礎を気軽に体験してもらうために、おやつ会形式の勉強会を開催
- 開催日：2月20日、参加者：20名
- おやつを用意し、雑談しながら学べる雰囲気づくりに工夫

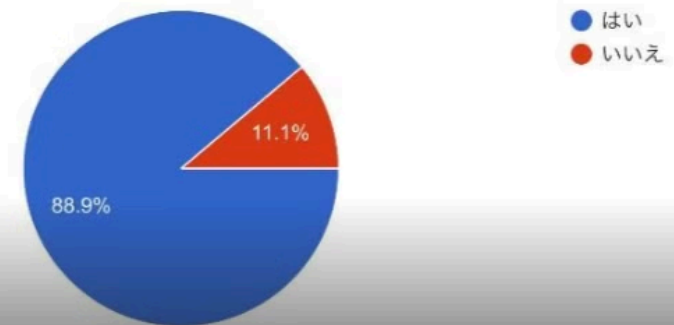
■ 成果（アンケート結果）

- 意識変化率：約90%
- 「AIを使って画像や資料が簡単にできる実例が面白い」「おやつがあると参加しやすい」などの声
- 堅苦しさを感せず、デジタルへのハードルが下がったという感想が多かった



今回の勉強会を受ける前と後で変化はありましたか？

18 件の回答



社内向けDX資料の作成

■ 作成の背景 / 目的

- DXの概念やメリットを伝えるため
- デジタルに苦手意識がある層へのアプローチとして、用語をやさしく解説する資料を用意
- 実際に「みんなが普段使っているもの」に着目して、DXを身近に感じてもらう狙い

■ 社内資料の中身・工夫した点

1. 用語の丁寧な解説

- OS、ブラウザ、クラウド、AIなど
- なるべく専門用語を使わず、日常例を交えて紹介

2. 身近なDX事例をピックアップ

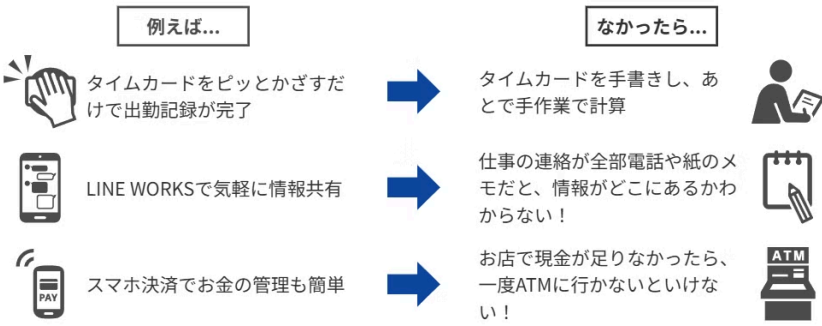
- 「タイムカードをピットかざす」「スマホ決済」など、誰もが知っているサービスを例示

3. 紙／デジタル両方で配布（予定）

- 印刷したものを社内で回覧
- PDF化し、LINE WORKSなどでも共有

DXって何？

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、デジタル技術を使って仕事のやり方やビジネスを大きく変えることです。



IT用語集

これからITリテラシーを高めていくうえで、知っておくべき重要単語（1）

OS(オーエス) パソコンやスマホを動かすための“土台”となるソフト。WindowsやiPhoneのiOSが有名。	ブラウザ インターネットを見るためのアプリ。Google ChromeやSafariなどがある。	アプリ（アプリケーション） スマホやパソコンで使うソフトのこと。LINEやYouTubeもアプリの一つ。
アップデート アプリやシステムを新しくして、より便利に・安全にすること。	Wi-Fi（ワイファイ） インターネットにつなぐための“見えない電波”。線（ケーブル）なしで接続できる。	URL（ユーアールエル） インターネット上の“住所”のこと。例えば、GoogleのURLは「https://www.google.com」。
クラウド パソコンの中ではなく、インターネット上にデータを保存して使うのみ。Googleドライブなどがある。	パスワード 自分のデータを守る“鍵”。英数字を組み合わせて強いパスワードを作るのが大事。	ウイルス コンピューターを壊したり、情報を盗んだりする悪いソフト。ウイルス対策ソフトで守る。

(2) 社内課題への解決策の提案

1

業務別勉強会

スライド作成や、Excel作業など、業務別での課題解決のためのハンズオン研修を求める声が多かった。このようなそれぞれの社内課題に対する解決策の提案という形で、業務別勉強会を実施した。

2

勉強会のアーカイブ

ITリテラシーの底上げという社内課題に対して、勉強会のアーカイブ動画を残し、当日参加できなかった人も学べるようにした。

3

ITリテラシー底上げのためのロードマップ

DXを推進していくための準備段階として、ITリテラシーの底上げが必要で、その個人差が社内課題としてあった。そこで、今後社内全体でDXを推進していけるようにロードマップを作成した。

業務別勉強会

■ 目的・背景

現場から「業務のここが大変」「もっと効率化したい」といった具体的な声が多く寄せられました。

その声に応える形で、業務に直結する内容をテーマに、3回に分けて勉強会を開催しました。

誰でも気軽に参加できるよう、食堂でカジュアルにハンズオン形式で実施しました。

■ 実施内容（3本立て）

ChatGPTハンズオン講座（3/3）

- ChatGPTの登録～基本操作を一緒に実践
- プロンプトのコツを学び、AIの力を体感
- 対象：AIに興味がある・初めて触る人

資料作成講座（3/4）

- Gammaで資料を簡単に作成
- napkinAI/recraftなど図やイラスト作成AIの紹介
- 対象：スライド作成に時間がかかる人

Excel効率化講座（3/10）

- マクロの基礎～応用で作業自動化
- ピボットテーブルで分析を効率化
- 対象：繰り返し作業が多い人



📌 プロンプト作成のコツ

- | | |
|---|------------------------------------|
| ① 具体的に書く！
どこで？ いつ？ 何をしたい？ | — 条件を入れる！
料金・時間・難易度など |
| H 答えの形を指定！
箇条書き、100文字以内など | ⌕ 細かく質問を分ける！
長すぎると混乱するので、段階的に聞く |
| 5 役割を与える
「あなたは、英会話の先生です」「あなたはウェブデザイナーです」など | |

ITリテラシーロードマップ

■ 現状分析と目標設定

- 各自のITスキルを正確に評価し、スキルギャップを明確化
- 理解度・習熟度に応じた個別目標を設定

■ 自走を促す工夫

- 段階的ステップで行動を明確化
- ケーススタディ & 実務直結トレーニング
- 定期フォローアップで進捗確認 & サポート
- ピアラーニングで相互支援を促進
- 習得状況を可視化しモチベーション維持
- 専用相談窓口で心理的ハードルを低減



ロードマップ設計で遠藤さんやカネダイさんがインターン終了後もDXを続けることができる仕組みを整備しました。

(3) DX推進室の社内PR

1 社内資料（DXに対する意識改革・ITリテラシー向上・DX推進室の広報）

DX推進広報資料では、DX推進室の活動を載せて、社内の認知度向上につなげた。

2 キーパーソンへのインタビュー

佐藤恭子さん、熊谷公男さんに直接インタビューをしたりして、DX推進室の存在をPRできた。

DX推進室へ気軽に相談を！

DX推進室って何をしているの？： DX推進室では、社内のさまざまな課題を集め、それぞれの関係性を整理しながら「どうすればもっと働きやすくなるか？」を考え、解決策を提案しています。DXと聞くと「ITの専門家向けの話かな？」と思うかもしれませんが、実は「こんな作業、もっと楽にならないかな？」という身近な悩みからDXは始まります！

気軽に相談してみよう！：「こういうのがあったらいいな」という気軽な発想も大歓迎！
「こんなことで困ってる！」という相談も、もちろんOK！



DX相談窓口はこちら！

電話：090-9250-6921

ラインワークス：ka.80025@kanedaikesennuma

ミッションの達成度：約70%

達成できた点

- **ロードマップ設計**
 - DX推進の目的・ステップを整理
 - 優先課題を明確にし、計画立案を支援
- **学びの場の提供**
 - 勉強会や資料共有を通じて基礎理解を促進
 - 実践につながるケーススタディを導入
- **社内の現状把握**
 - アンケート・ヒアリングを実施
 - 各部門の課題や期待値を可視化

未達成の点

- **ロードマップの実行に至らず**
 - 中盤で方針転換が発生
 - 実行フェーズに入る時間が不足
- **仕組み化の未完成**
 - DX活動の定常化や役割設計が未確立
 - 運用・改善サイクルまで構築できず
- **広報と巻き込みが不十分**
 - キーパーソンとの対話が限定的
 - DX推進室の認知度向上に課題あり

残した課題

1

DX未関心層へのアプローチ強化

DX未関心層へのアプローチをさらに強化する必要がある

2

ロードマップ実行フェーズへの移行

ロードマップの実行フェーズに進むための支援が必要

3

DX文化の定着

会社全体でDX文化を根付かせるための長期的な取り組みが求められる



インターンの学び・感想

要件定義の重要性

初めの段階で要件を詰めていたつもりでしたが、実際に3週間目で方向転換が発生し、十分な詰めができていなかったことを痛感しました。



社内の変化を起こせた実感

DXへの意識改革が始まり、多くの社員がインプットの機会を求めるようになったことは大きな成果でした。

伝え方・巻き込み力の大切さ

どのように伝えれば社員が抵抗なく理解し、実際に行動に移してもらえるかを学びました。また、PDCAを回しながら試行錯誤できる環境があったのは、非常に貴重な経験でした。

今回のインターンを通じて、DX推進の基盤づくりには成功しましたが、次のフェーズとして**実行と定着化**に進む必要があることが分かりました。また、**要件定義の精度を上げることで、プロジェクトの方向転換を減らすことができる**と学びました。

